



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
 電話 03-5315-0941
 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子
 毎月1回20日発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2021年7月20日
 第725号



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

▼7月7日、「コロナ禍の下、『命』を最大の価値基軸に安全・安定輸送をつくり出そう！」を発出しました(東京オリンピック無観客決定前に発出)

**コロナ禍の下、「命」を最大の価値基軸に
 安全・安定輸送をつくり出そう！**

私たちは、赤字・コロナ禍においても公共交通機関の使命を全うし、日々緊張感を持って業務にあたっている。そのような中、7月3日に集中豪雨によって熱海で土石流による甚大な被害が発生した。夏季輸送を目前に、自然災害の猛威に恐怖を覚えた。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りすると共に、被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

激甚化する自然災害の対応、繰り返し発生する注意を要する事象、グループ会社を含めた労働災害は未だ増え続けている。そのような中、例年とは異なる夏季輸送が控えている今、私たちが心しなければならぬことは、社会的な安全、お客さまの安全、組合員の安全を守ることであり、「命」を最大の価値基軸に、JR東日本グループで働く全ての仲間と安全・安定輸送を担うことに集中していかなければならない。

新型コロナウイルスの接種も始まっているが、首都圏において感染者数は減少せず、予断を許さない状況は続いている。そのような中、6月30日、JR東日本は「東京2020オリンピック期間中において、日中帯や終電以降の深夜帯に臨時列車を運転します。」とプレス発表を行った。私たちは、感染拡大防止の観点でこの間、職場で苦勞しながら日々取り組んできている。しかし、オリンピック組織委員会からの要請を受けたとはいえ、臨時列車を運転することに、組合員からは疑問の声があがっている。職場では、オリンピックに向けての動画を社員に視聴させているが、「通常の終電よりも遅い時間帯に臨時列車を運転」と発表しているのだから、一方的な動画配信で済ませてはならない。会社は、職場で苦勞している社員の声に向き合い、会社が行おうとしていることについて説明し、協力を求めるべきである。さらに、安定輸送を前提としたオリンピック輸送が示されているが、現場で働く組合員の労働環境の整備は後手を踏んでいる現実がある。

中央本部は、このような経営姿勢に対し、是々非々の姿勢で対峙していくものである。

全組合員のみなさん！

- 「命」を最大の価値基軸に、安全・安定輸送を確保していこう！
- 小さなことも見逃さず、何かあったら、本部・地本・支部・分会・近くの役員へ「報告・連絡・相談」をしよう！
- 中央本部は地方本部と連携し、必要があれば、問題の解決を求め団体交渉を行っていきます！

2021年7月7日
 東日本旅客鉄道労働組合

全組合員の皆さん！

- 「命」を最大の価値基軸に、安全・安定輸送を確保していこう！
- 小さなことも見逃さず、何かあったら、本部・地本・支部・分会・近くの役員へ「報告・連絡・相談」をしよう！
- 中央本部は地本と連携し、必要があれば、問題の解決を求め団体交渉を行っていきます！

**「命」を最大の価値基軸に、JR東日本グループで働く
 全ての仲間と安全・安定輸送をつくり出そう！**

激甚化する災害とコロナ禍の中、
 健康を大切にして夏季輸送と
 オリパラ輸送を完遂しよう！

7月3日に発生した集中豪雨によって熱海市で土石流による甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被害に遭われた皆さまに心からお見舞い申し上げます。

そして、全組合員の皆さん！東京オリンピック・パラリンピックがまもなく開催される中で公共交通機関の使命を全うし、日々安全・安定輸送にご尽力頂き、心から感謝申し上げます。各地方から首都圏における案内準備などスタッフとして緊張感を持って業務にあたる組合員の奮闘が報われるためにも、東京オリンピック・パラリンピック期間中、安全・安定輸送を完遂し、安心してご利用いただけるよう使命を全うしていきましょう。

しかし、公共交通の安全や生活サービスを担う、私

たちに対する政府や企業のバックアップは十分なものでなく、特に健康面での不安は隠せません。コロナ感染症の拡大は現在も続いており、予断を許さない状況だからです。当初、組織委員会からの要請で日中帯や終電以降の深夜帯に臨時列車の運転が計画されましたが、組合員から臨時列車を運転するにあたって疑問の声も出されました。また、東京2020大会に向けた直前準備動画の視聴は、一方的な動画配信ではなく、職場で苦勞している社員に寄り添った協力を求める姿勢が重要だと考えています。

**事故への危機感を最大級に高め、
 上意下達ではなく現場目線の
 職場を目標せよう！**

JOCオフィシャルパートナーとしての役割を果たし、変わりゆく社会に向けて「変革2027」を基盤とした施策が様々な実行されるなかで、「何よりも安全が優先されている」とは感じられません。現場で働く

組合員の労働環境の整備などに対して負託に込めるといふよりは、「決まったことには従え」という経営姿勢が随所でみられます。またパートナースタッフにおいて発生している事故は、作業箇所や作業日を間違えるなど、一歩間違えば、命にかかわる事態に発展してしまう恐れがあり、このような状況を放置すれば、JR東日本グループの信頼を損ねる事態になりかねません。JR東労組として、組合員ひいては労働者とお客さまの安全と命を守るため、職場現実を正しく掴み、本部・地本・支部・分会・部会一体となって、組合員と共に「安全・命を最大の価値基軸に『職場と仕事と生活』を守るため仲間と共に未来を切り拓く8・9フォーラム」を開催します。職場のたたかいたと提言を通じて、経営体質における問題点を深め、危機感を一致させてたかおうではありませんか。

あわや死亡事故！

**なぜ事故・事象が多発するのか
 背後要因を掴み、安全を創り出そう！**

**線閉されている区間に
 レールスターを載せし列車と衝突！**

2021年6月16日、米坂線手ノ子〜羽前沼沢駅間において、トンネル内作業のためにレールスターに乗車し走行していたところ、後方からの列車進来に気づいた。しかし、そのまま走行を続け、トンネルを出たところで降車し線路外へ退避。その後、列車は非常ブレーキを扱うも衝突し、レールスターを84m引きずった。

今回、土地勘のない場所での作業に加え、ナビ(地図アプリ)での設定間違い、現地での踏切名称の確認失念などが重なり、線路閉鎖されていた区間とは全く異なる区間に載線してしまった。



7月12日、四度目の「緊急事態宣言」が発出された。宣言初

日、電車内はお客さまの数が減るわけでもなく、街をマスク姿の人々が行き交う。宣言前と変わらない光景が見られた▼まもなく開催される東京オリンピック・パラリンピック。日本のトップリーダーたちは、福島第一原発の状況を「アンダーコントロール」と言い、「復興五輪」や「人類がコロナに打ち勝った証」などと全世界に発信してきた▼福島第一原発事故から10年が経過した現在でも「原子力緊急事態宣言」の全面解除は見えず、避難生活を余儀なくされる方々が元の生活に戻ることができていない▼「復興五輪」と言っていたが、オリンピック選手村の食事について、福島産の食材が使われることを懸念する国もあるという▼コロナワクチンの接種は実施されているものの、国内の感染者数は増加傾向であり、オリンピック関係者の感染も出ている。コロナに打ち勝っているとは言えないのではないだろうか▼感染リスクを負いながら日々の業務に加え、夏季輸送中のオリパラ輸送に向けた準備や警備等を着実に実施し、コロナ前から変わらない安全・安定輸送を私たちが守り続けている▼いかなる状況であろうとも、命が最大の価値基軸だ。全組合員一丸となって、夏季輸送を乗り越えていこう！ (J・F)